

◇経済開発と産業

速水佑次郎『新版 開発経済学：諸国民の貧困と富 第2版』創文社，2000年  
第3-5章

(英訳) Yujiro Hayami, *Development Economics: From the Poverty to the Wealth of Nations*,  
2nd edition, Oxford Univ. Press, 2001. (Chap. 3-5)

(中訳) 速水佑次郎 (李周訳) 『发展经济学：从贫困到富裕』社会科学文献出版社，  
2003年 (第3-5章)

※英訳には第3版もあるが未入手。

1) 天然資源の制約，とくに食糧生産の制約が経済発展を制約する関係と，その制約を克服する方法について，マルサス・モデル，リカード・モデル，ラニス&フェイ・モデルで説明しなさい。

2) リカード・モデルとマルクス・モデルとでは，資本主義発展の制約条件はどう異なっているか。モデルに即して説明しなさい。

3) ハロッド・ドーマーモデルでは貯蓄率の引き上げが持続的な経済成長のカギとなる。しかし，ソロー・スワンモデルでは，貯蓄率を引き上げても一時的な経済成長しか実現できず，成長の持続には生産性の継続的な向上が必要だとされる。この違いは，二つのモデルの構造のどのような相違から生み出されるのか。

◇動的比較優位の理論

Kaname Akamatsu, A Historical Pattern of Economic Growth in Developing Countries, *The Developing Economies*, Preliminary Issue No.1, Institute of Asian Economic Affairs, March 1962.

小島清『雁行型経済発展論 (第1巻)』文真堂，2003年，第1，7章。

日本語を高速で読めないが英語ならば読めるという人は，以下の同上書第8章を用いてもよい。

Kiyoshi Kojima, "Flying Geese" Model of Asian Economic Development: Origin, Theoretical Extension, and Regional Policy Implications," in Kojima, *Ganko Keitai Gata Hatten Ron*.

村岡俊三「マルクス経済学と現代のグローバリゼーション」『経済』2001年2月号，新日本出版社，2001年2月(のちに村岡俊三『グローバリゼーションをマルクスの目で読み解く』新日本出版社，2010年，に所収)。

## 課題

- 4) 小島[2003]21 頁または 305 頁のグラフに即して、雁行形態の基本形の論理を説明しなさい。続いて、雁行形態の変形の論理を説明しなさい。
- 5) 村岡[2001]における比較生産費の原理を 133 ページの数値例を使って説明しなさい。具体的には、なぜ甲国の X 部門が比較優位となり、甲国の X 部門が比較列となるかを説明しなさい。この数値例だけでは説明できないので、本文の記述で補って説明すること。
- 6) 比較優位論と対外直接投資論がどのように関係しているかについて、小島理論と村岡理論のそれぞれに即して説明しなさい。

Raymond Vernon, “International Investment and International Trade in the Product Cycle,” *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 80, May 1966.

- 7) ヴァーノンのプロダクト・サイクル論は、同じ製品の性質が時とともに変化することに注目している。どのように変化して、それが生産立地にどのように影響を与えると主張しているのか。わかりやすく図表にまとめて説明しなさい。

Michael E. Porter, “The Competitive Advantage of Nations,” in Porter, *On Competition*, A Harvard Business Review Book, 1998.

(邦訳) マイケル・E・ポーター (竹内弘高訳) 「国の競争優位」 (『競争戦略論Ⅱ』ダイヤモンド社, 1999 年)。

(中訳) 迈克尔・波特(高登第・李明轩訳)「国家竞争优势」(波特『竞争论』中信出版社, 2006 年)。

- 8) ポーターはどのような状態を「国に競争優位がある」と考えているのだろうか。検討しなさい。
- 9) ポーターの考え方を発展途上国に持ち込んだ場合、同じように妥当するか、それとも一部または全部が妥当しないかを考えなさい。妥当しないとすれば、クラスターのモデルをどのように変形させれば途上国に有効になるかを考えなさい。

## ◇多国籍企業論

Stephen Herbert Hymer, *The International Operations of National Firms: A Study of Direct Foreign Investment*, The Massachusetts Institute of Technology, 1976, Chap. 1-3.

(邦訳) スティーブ・ハイマー (宮崎義一編訳) 『多国籍企業論』岩波書店, 1979 年, 第 1-3 章。

10) ハイマーは企業の海外事業活動の原因として二つの大きな理由と一つの副次的な理由を挙げている。これらについて整理し、一つずつ説明しなさい。

11)ハイマーの言う「優位性」は、「比較優位」と同じものなのか、異なるものなのかを考えなさい。そして、ハイマー理論では「優位性」を持つ企業は本国では比較優位部門にあるのか、比較劣位部門にあるのかも考えなさい。

John H. Dunning, *Multinational Enterprises and the Global Economy*, Addison-Wesley Publishing Company, 1993, Chap. 4.

12)折衷パラダイムにおける3つの優位(O advantages, L advantages, I advantages)について説明し、Dunning が、3つの優位からどのように多国籍企業の活動の原理を説明しているかを述べなさい。

13)Dunning の折衷パラダイムにおいては、ある企業が OLI の3つの優位を保持するときに海外事業活動が起こる。では、Oがない場合、Lがない場合、Iがない場合はそれぞれ何が起こるだろうか。考えなさい。

Christopher A. Bartlett and Sumantra Ghoshal, *Managing Across Borders: The Transnational Solution*, London. Century Business, 1989, Part I.

(邦訳)クリストファー・A・バートレット&スманトラ・ゴシヤール(吉原英樹監訳)『地球市場時代の企業戦略』日本経済新聞社, 1990年, 第I部。

14)マルチナショナル企業, グローバル企業, インターナショナル企業, トランスナショナル企業の違いについて説明しなさい。

15)バートレットとゴシヤールの優位性についての考え方をハイマー, ポーター, ダニングと比べた時に, どこが異なるかを考えなさい。

#### ◇生産ネットワーク論と経済開発

Fukunari Kimura, "How Have Production Networks Changed Development Strategies in East Asia?," in D. K. Elms and P. Low eds., *Global Value Chains in a Changing World*, Fung Global Institute, Nanyang Technological University, and World Trade Organization, 2013.

16)フラグメンテーションの2次元モデルについて, フラグメンテーションがなぜ, どのような原理で起こるのかに注意しながら説明しなさい。

17)アジアの発展途上国が生産ネットワークをどのように経済開発に活用しているかを木村の説明に即して述べなさい。

18) 生産ネットワークを活用して経済開発を試みるアジアの発展途上国の戦略について, 有効性と問題点を考えなさい。